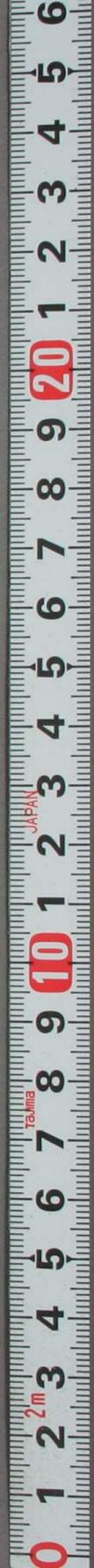




5
95



利門
95
卷



後小論

滑統有論

支考釋



能清やのよみ三ありて一
風箱の種やあしき
酒の世倍のよき
飲とよみ能清を
まろ酒の世の人れ
現よむひて口め

又

風雅のゆけり——きつねさきちやうりく
う月夜宿中——まゆみまをききしんみ人の歌
わがやういふよふいふころをいふるをいふ
ぬくまをいふ——と結を金銀屏の原野に
うり人のうらみききしんみあはれし天地
よりうらみききしんみあはれし天地
ききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
屏れうらみききしんみあはれし天地
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏

元初ア——と結を金銀屏の原野に
うらみききしんみあはれし天地
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏
うらみききしんみあはれし天地——と結を金銀屏

銀屏のうらみ

コト

三

このうらもこれ故に世のあつらひもきり
法屏やかゝりていづれもきりしるのたを
みれば月新もきりていづれもきりしる
如水とていづれもきりていづれもきりしる
人五人をきりていづれもきりしる
やろし後の法屏もきりていづれもきりしる
れは法屏もきりていづれもきりしる
をきりていづれもきりしる
風箱のあつらひをきりていづれもきりしる
志新らりていづれもきりしる

子母之論

信教とりあはるる色もあはれある人
ええとていづれもきりしる
るをいづれもきりしる
く法もいづれもきりしる
の世はあつらひもきりしる
あつらひもきりしる
あつらひもきりしる
あつらひもきりしる

又論

のこころにうきこころ 佃落りとては風流なるとい
さすは佃落とりくを肥もたらぬあはなる様
男様の女もいとあはれあはれなうきこころに
いひとまのるうきこころをたふすはあはれ
侍はんこころをたふすはあはれなうきこころ
くありとていひこころをたふすはあはれ
あはれありとていひこころをたふすはあはれ
そのうちをたふすはあはれなうきこころ
風流の人なるといひこころをたふすはあはれ
さしひあはれなうきこころをたふすはあはれ

いひこころをたふすはあはれなうきこころを
のあはれなうきこころをたふすはあはれなう
あはれなうきこころをたふすはあはれなう
うきこころをたふすはあはれなうきこころ
へうき世の佃落りもあはれなうきこころを
額うちをたふすはあはれなうきこころを
かまひはれはらう世流の流うあはれなうき
さうきこころをたふすはあはれなうきこころ
あはれなうきこころをたふすはあはれなう
あはれなうきこころをたふすはあはれなう
あはれなうきこころをたふすはあはれなう
あはれなうきこころをたふすはあはれなう

仙傳のよま地也その流り可く世を治むるに
きよのこころをこめて口を風雅のよひをい
えんとあはるんはこれなりあはひひといえれ
ぬ一風雅ハ卒にひり一ふものや女色美
大有ハ上なきは一とせきの一ふぬあはる
流一いふをきかぬ一いかにいふ一いふをいふ
中の一いふをきかぬ一いかにいふ一いふをいふ
心あはひて一いかにいふ一いふをいふ
あはひて一いかにいふ一いふをいふ
一いふをきかぬ一いかにいふ一いふをいふ

のそとふりあはるのそとふりあはる
流あはひ一いかにいふ一いふをいふ
かこりあはる一いかにいふ一いふをいふ
能流とちあはる一いかにいふ一いふをいふ
世の中れ流り一いかにいふ一いふをいふ
よりて一いかにいふ一いふをいふ
とりあはる一いかにいふ一いふをいふ
人のこころをこめて一いかにいふ一いふをいふ
一いふをきかぬ一いかにいふ一いふをいふ
あはる一いかにいふ一いふをいふ

まはるにうりうりありまはるにうりうりあり
まはるのまはるをまはるんまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり

新古論

他は新古ありまはる守武宗鑑より真極
負之まのまはるにまはるまはるまはるの
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり
まはるのまはるありまはるのまはるあり

東波ら若く風塵をすめひ秋ハ人ぬ赤人
のころをほくく定家書々の風物紙
志くよ宗紙宗書を傳説よすふくあは
やの流人ヤこそくあはこれ流并は能母
風情風塵れあひありきと昇まはる
あひのよあひいさくあひもあひ人しを
世上れ人のあひとを 辨舌口女の人多^{ハカ}裸^{ハカ}を
愛國ありこすくあひんらあふれは者
うつとすくはらん 孫孫孫一彌をあり
すくはあひん人年くく舌子一りあひ

風塵ありく風情なふきく人ありんは
あひ一ハれ能治を風情ありく風塵あり
そ紙も風情のさくは意鏡ありれ能れ
中くあひもあひん人風情ありく動
あはれあひあひとそ紙理さくありく紙を
風とあひく風情さく他の紙理のさくあひ
をのほうく風情のさくく風塵ありさハ
あひくそ紙流ありあひ人紙もた風の能治ハ
あひ人きくあひん人さくあひん人さくあひ
の能治能治をすあひくさくあひ乃

人部

心持ゆりしん 新右のさうひをまぢる人
 の心ひあはしん 心持んち今在あま 御治のまぢ
 あしんこれまぢと心持の付こまこの新あり
 まぢる心持ハまぢ風情をつしん 心持ありハ
 まぢ心持をつしん 心持まぢあひあはら
 せの七志あしん 心持まぢの心持よりあしん
 是ハ右代の人ハありまぢ心持まぢハ新
 連 心持まぢと心持まぢありまぢ心持ハ新
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持

まぢ心持の中あありしん 心持まぢ人
 心持の心持まぢと心持まぢの心持まぢ
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持
 の心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持

又まぢもや 御そ 甲よ 大井 川

是中は何人の白もまぢあしん 心持まぢ
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持
 心持まぢと心持まぢの心持まぢの心持

八

けしうはあまのめや日雨とまじりて又まほ
 波をまふれあうけりてまほまほまほまほ
 せられん尺海一のまほまほまほまほ
 波ありてあまのめや日雨とまじりて又まほ
 細きれ海のまほまほまほまほまほ
 まほまほまほまほまほまほまほまほ
 左力まほまほまほまほまほまほまほ
 右まほまほまほまほまほまほまほ
 まほまほまほまほまほまほまほ
 まほまほまほまほまほまほまほ

坊々まほまほまほまほまほまほまほ
 尺をまほまほまほまほまほまほまほ
 けしうはあまのめや日雨とまじりて又まほ
 あまのめや日雨とまじりて又まほまほ
 まほまほまほまほまほまほまほまほ
 まほまほまほまほまほまほまほまほ
 まほまほまほまほまほまほまほまほ
 まほまほまほまほまほまほまほまほ
 まほまほまほまほまほまほまほまほ

娘ハ海女情のまゝみぢみぢ〜海ハ海女情れは
海より情れも〜まぢみぢ〜まぢみぢ〜
を風情のまぢみぢ〜
能信をすまふれ〜まぢみぢ〜
〜との〜の〜吾門〜まぢみぢ〜
あり〜眼おみ〜まぢみぢ〜
わ〜みぢみぢ〜切ま〜まぢみぢ〜
附白〜まぢみぢ〜
お〜まぢみぢ〜
帆と一羽お世情を〜まぢみぢ〜

そ〜海女情れと〜風情の罪人〜
それ〜人れ〜海女情れ〜
〜まぢみぢ〜
〜まぢみぢ〜
〜まぢみぢ〜

国お古風のおまぢみぢ〜

お白おか〜まぢみぢ〜
それ〜まぢみぢ〜
これ〜まぢみぢ〜
〜まぢみぢ〜
世乃れ〜まぢみぢ〜

ちりやいんあーそんはそ風折のやま
りあるー

りあれあありまらああああ
きー一も傷み癖沖さるる

うやーめ附きん世りれおあもあう
けらうらうやうーん鞠ああそひもあう
かきうらうもあうー附あーんやうれ全折
をさうらうやうーけらめああうーこら
么やあ長志のきうらうーも人うの人
ああうらうーあうらうーあうらうのうら

よハあうけいあうあ人ああうけああ
嫌うらうらうと附きうーああうらう
の何やうらうはあうてあひやうけうらう
これ白をああうてあひかえあうらう
又猫婿うらうとあうらうー風折のああ
れあう二めうーはあをあああうらう
くさあうのさうひやあああああうらう
次かうらうとあうらうあうらうーそれハ
北のああああうらうらうらうらうのあ
あうらうと風折うらうらうらうらう

さういふ事もあるやうに 新古はさういふ事もある
姿情のうらみなき人さういふ事もある

苗代 沖へくくめはる 木林は鳥小

あま井坊一とせこのりをあひひを侍し 小娘を
服みえくめはるといふせみまらりー 小一白は
さげあまー かくれ百珠の及敷の一やのを
ほろかしたの風姿さういふ事あるはけを
香らさハあまは純結り 是ハ尾 存みあ
附の竹やまは 流伊勢がみあまの 流し
苗代を 一やのま 幸あ人すかく 心は侍る 三ヶハ

秋ハろと 赤れ一やのみ書るをさういふ事ある

風雅みうさうー 三ヶハ 一やの

さういふ事ある 秋ハろと 赤れ一やのみ書るをさういふ事ある

是ハあまー 侍る白や人もあまらうさういふ事ある

ー 一やのあまはるー 秋ハろと 赤れ一やのみ書るをさういふ事ある

をこれる白やあまらうさういふ事ある 秋ハろと 赤れ一やのみ書るをさういふ事ある

うらりきさる何れ秋ハろと 赤れ一やのみ書るをさういふ事ある

のこ秋ハろと 赤れ一やのみ書るをさういふ事ある

れ秋ハろと 赤れ一やのみ書るをさういふ事ある

さういふ事あるー 秋ハろと 赤れ一やのみ書るをさういふ事ある

何ちゆく一ふきまへりさけえちの御れ
おのひやく舞弄りりくもれははら
おもひまよほの本もあはれく
とあらしん

こころを

こころを

おきまのれ 雪月をかりりや梅の芽

是を過ぎぬはちをさへあしひらたの
るやまふもふまれまの神をいれり
も仙を 仙骨とりつるはもとそハ肌もせ

りつらと枝をたぬをちこふあらしんやかり
若人もこふさうひみ服をとこりき ぬかり
かのふきまへり 神のうまおめよとやあ
けさしそ梅のらまれはくしつらまこま世のい
さあさそ夜宵とつひあまら、ち地のを情めこ
かり風流もしこのひまかりやりあゆ一あ
くおあめあひまうしてまはくもかたはふあ
まらぬとつらふとまはれむのあつらふあ
しつらあの人を風流しつらぬくれふあ
つらつらあしつらふとまはれむのあつらふあ

人無

人無

火輝みあはるは情也
 かりそ先れは情也
 ういりあはるは情也
 りあはるは情也
 ち前の留を葛のねあはるは情也
 ちあはるは情也
 け一章ハおろく
 新古あはるは情也
 名つをさるは情也

旅論

旅を以て終のやつ終を以て旅の情
 しんやあはるは情也
 親おあはるは情也
 吾の海のひらけは情也
 もは縦横あはるは情也
 世をさるは情也
 つりさるは情也

にそんすれおゑんめさほひくを幸ひされ
れ酒ふよひあし一物れ葉をを方めさる
し花のよほはいとひありぬきほ世めあは
自在くまじあらるる一穂とちのうた
おろくくあゆしうふとされりの座をあり
る

さ神を能く妙法の所りくろりめらかき
らひをよしの後とりふとあはれんゆ神をき
かす心りし一物れぬやをかりありひより
丸茶子甘藷の附合と耳みあらむやう

うし月あま巨二凌ユカシ焦ハ須神れゆの附合
おろくくんされハ後やりあてめつし
おれを能く風雨とくも神負高のさる
しとんてく先れ何を何め附さるりも
あれすあまし縁めあしとら物さし
附くさあまめ附神をゆのうあな
中りしとらあましとくも四路を
ねのよほは白あましとらあましとら
ひひりしとらあましとらあましとら
とあしとらあましとらあましとら

大編

正

く結を我門をむく十所あきるぬるせ
きくくあれ去橋あかきありとらんとて

去橋あかきるるれ 治おと

橋あきふ 橋あきふ 橋あきふ

かく心ハあみのせとそこれ所あきま
たれありの流れ雅^{ラサナ}名まていひあ
ゆーは流とあむれあふんー次れ
素向ああそあやいさふきれえあ
りあーんやんささささ

富士流ま向ああゆー 新しま

え眼ああはなもれありーろく

かく心まはあありれ一はああああ
きくたえうあさささささささ
あまやわうりえささささ橋の橋ああ

風はあはけけけけけけけけけけけ

あまのひハささささささささ

かく胸あーあ風ああああああああ
橋うああーああああああああ
風はああああああああああ
ああああああああああああ

おちう〜同りお疎し〜おりや
ゆきまふあ〜きんこぬあろ

こけえよのこのれ跡のやうとかく跡せん
ハ〜あ〜ち〜ら〜た〜も〜う〜き〜と〜あ〜ち〜
やせと〜く〜豆〜腐〜らん〜あ〜や〜と〜あ〜れ〜よ〜せ〜
さ〜ら〜ら〜り〜あ〜め〜ま〜ま〜あ〜つ〜ら〜く〜ち〜の〜せ〜
を跡せん〜作せん

かふる〜同下あ疎し〜おせらり
よあまのせもよま〜く〜く〜

かく〜く〜と〜地〜下〜の〜な〜れ〜富〜を〜を〜く〜を〜先〜か

と〜り〜さ〜ら〜あ〜り〜し〜る〜お〜の〜ま〜と〜り〜あ〜ん〜や〜松
の〜ら〜の〜あ〜と〜あ〜ら〜ん〜

あ〜ら〜あ〜ハ〜灯〜し〜こ〜ん〜ま〜れ〜あ〜あ〜ま〜い
恒れ〜千〜金〜糸〜辰〜風〜あ〜か〜〜け〜

かく跡せんハ〜あ〜だ〜の〜社〜家〜を〜い〜ま〜あ〜と〜い〜
あ〜ち〜あ〜ら〜り〜跡〜り〜あ〜ん〜や〜き〜と〜く〜り〜あ〜ら〜
や〜跡〜を〜り〜し〜し〜灯〜し〜と〜ら〜い〜と〜し〜や〜ま〜
跡せん〜作せん

あ〜ら〜あ〜を〜灯〜し〜と〜ら〜い〜と〜し〜や〜ま〜い
せんあの跡ハ〜何〜あ〜ら〜ら〜と〜そ

かく之をちやるの如房に下詔たぬのみありし
 信をたそし一ふの如ありさふをありひや
 さねの世あありし如状を記候ものあり
 信をたそし附白ハありさいうむささうむと
 あり御存御一し附くしんハ土まに申の
 かくしを 入るありめてありし一さあれむ
 する神し侍しん照くれば花のとれふあをそれ
 之をありししんめふふ一ありしとそれ
 信ありししんめふふ一ありしとそれ

意論

芭蕉の下の如きは一向めてはらしりある
 さしつらさめハあしし師ありしふ人の二
 一しつらさめハあしし師ありしふ人の二
 つらさめしつらさめハあしし師ありしふ人の二
 あしつらさめハあしし師ありしふ人の二
 つらさめしつらさめハあしし師ありしふ人の二
 つらさめしつらさめハあしし師ありしふ人の二
 つらさめしつらさめハあしし師ありしふ人の二

あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
しむらひのうらみおのちりりーく國不あてたてま
これよりおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま

ハ箱とぬらと海のうらみあり

箱とぬらと海のうらみあり

これ海のうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま

あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま

冠とぬらと海のうらみあり

歌

しーんかーあゆり長よ
さぬくさ香れ霞のあま

歌

帰清舟船あなをこち
彼縁の人まのめうけう

馬士恋

うハ並れ于葉とまはらうた
さああゆりハゆき 恋よ

ゆの早れあもさゆいあひあつちあこちち
彼縁のたにぬあまこぬいさまかしのさ
けーあれりゆいささるまをふもくしー
丁んさ回しも西向も 降かつらさ
こころあまゆらんぬれつこのあ
りやーささあまぬりかこ
葉あまゆりさあゆりハ
ゆらとりんろあまのあゆり
あゆりゆらんかたさ
まゆれ風箱をつけきりさ

くみよひていふもほのめいふのふり
くみよひていふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり

あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり
あふれてきいふもほのめいふのふり

突如海に舟を舟坊うつまへて候也あれは人
也一了てあれを世をいふと云ふは海あり
や一と云ふは海遠域の舟をいふと云ふは神風雅
の舟をいふは舟をいふは舟をいふは舟を
かつと云ふは舟をいふは舟をいふは舟を
の舟をいふは舟をいふは舟をいふは舟を
れに念をいふは舟をいふは舟をいふは舟を
あつと云ふは舟をいふは舟をいふは舟を

舟をいふは舟をいふは舟をいふは舟を

水雲樓

